

早川基金の2年間

故早川幸男先生の御遺族からの寄附金を基にして早川基金が創設されたのは、1992年5月の評議員会である。その後、会員各位から多額の御寄附を頂いて、年間100万円をこえる海外渡航費の援助を行うことができた。特に、20代の若い研究者にもこのような旅費の援助が可能になったのは意義が大きい。この小文の目的は、この基金の運用のあらましを紹介して、この基金に御寄附下さった方々に対するお礼とさせていただくとともに、今後の応募の参考にしていただくことにある。

まず、この基金の内規にあるとおり、援助の目的は若い天文学者の海外学術研究にある。35才以下の本学会会員に対して、海外への往復運賃相当額を援助することになっている。選考委員会は、評議員会で指名された5名からなる。これまでに9回公募をおこなった。当初は毎回委員会を開催して合議審査したが、経費削減のために一年ほど前から書類選考に切りかえ、年1回委員会を開催することにした。また、内規にある年3回の公募では動きの速い海外渡航に十分対応できないとの意見が評議員会等で出されて、現在の年4回（3箇月毎）の公募になっている。

これまでの実績としては、応募者総数のべ76名に対して、採択されたのは24名（採択率32%）である。また、支給総額は345.9万円、1人あたり約14万円に相当する。学年別でみると、大学院の博士（後期）課程在学者が17名、修士課程在学者が3名、助手が1名、その他（研究生など）3名となっている。渡航目的では、国際学会での発表が最も多く14名、観測が6名、共同研究が4名である。このように、他の予算ではカバーされにくい大学院在学者が大部分を占めているのが特徴であり、本基金のユニークな性格を表わしている。一方、助手など常勤の職についている人には評価が辛くなっているのはやむを得ない。審査の方針としては、国際学会での組織委員あるいは口頭発

表を重視しており、ポスター発表はランクが低い。ただし、組織委員については今までのところ例はない。また、アメリカ天文学会など、申し込めば自動的に口頭発表できるケースもランクは低く評価してきた。これに対して、海外での観測、共同研究に対する評価は総体的に高い。また、被採択者と研究テーマは別表の通りである。被採択者からはその都度簡単な報告をいただいております。学会で保存している。適当な機会にこれらの報告も何かの形で公開したいと考えている。

今後も、この基金が若手の活躍のために生かされることを願いつつ、寄附をしてくださった方のお一人の声を以下に再掲したい。

「早川幸男基金のこと 自然科学は本質的に国際的な学問であるが、研究対象が地球外にある天文学は特に国際性が強い。研究分野は他の学問分野とも密接に関わって多岐に亘り、専門分野の研究者は世界的に見ても数が少ない。日本国内では尚更である。それで日本の研究者は外国の研究者と手紙やファックス、電話やプレプリントで情報を交換しあう。しかし何といたっても直接面会して討論するのが一番である。その意味で1992年に早川幸男氏が若手海外学術研究援助基金（早川幸男基金）を提供されたのはまことに時宜を得た措置であった。—（中略）—天文学が私の人間形成に果たした役割は測り知れない。天文学のおかげで今の私が在ると言ってもよいくらいである。この恩に報いるため、かつ私の為し得なかった天文学への貢献を前途有望な若手研究者に果たしてもらうため、手持ちの少額金をこの基金に加えさせていただくことにした。この基金によって渡航した若手研究者が海外でのびのびと観測に従事し、研究仲間と盛んに討論しているさまを思い浮かべると、私はほのぼのとした満足感に浸されるのである。佐藤明達（東京都）天文月報1994年3号」

会員各位のより一層の御理解、御協力をお願いしてしめくりとしたい。

早川基金選考委員会

早川基金受領者一覧

氏名	所属	身分	目的	テーマ
第1回(1992.12.22締切) 応募者10名				
清水敏文	東京大学	D1	共同研究	「ようこう」と光学観測データの比較
原 弘久	東京大学	D1	共同研究	「ようこう」と光学観測データの比較
和田桂一	北海道大学	D1	国際会議	弱いバー銀河中心領域の自己重力ガスの運動
第2回(1993.3.31締切) 応募者14名				
熊谷紫麻見	東京大学	学振PD	国際会議	SN1987AからのX線とガンマ線
田代 信	東京大学	助手	国際会議	ブレーザーの銀河とASTRO-DのX線観測
長谷川隆	東京大学	D4	観測	銀河中心近傍の大スケール分布
第3回(1993.8.31締切) 応募者6名				
菅井 肇	国立天文台	研究生	国際会議	スターバスト銀河中心領域の長スリット分光
平尾孝憲	名古屋大学	D2	共同研究	軌道赤外線望遠鏡の遠赤外測光器の最終性能試験
第4回(1993.12.10締切) 応募者5名				
佐藤康則	東北大学	M2	観測	ロックマンホールのKバンド深サーベイ
村山 卓	東北大学	M1	観測	ロックマンホールのKバンド深サーベイ
山田 亨	京都大学	D3	国際会議	とも座の”隠された”銀河集団
第5回(1994.3.20締切) 応募者4名				
柏川伸成	東京大学	学振D2	観測	銀河団の多色測光
加藤太一	京都大学	D2	国際会議	GRO J 0422+32の異常増光の発見
第6回(1994.6.10.→6.30締切延期) 応募者16名				
高田唯史	京都大学	D3	観測	ハワイ大, 2.2mの分光器でのBLRG近赤外観測
多賀正敏	東京大学	D2	国際会議	渦巻銀河NGC 3198のハローモデル
望月優子	立教大学	D3	国際会議	中性子星内の超流動体がパルサー現象へ与える影響
矢動丸泰	国立天文台	D2	国際会議	惑星状星雲の国際会議に出席
吉田慎一郎	東京大学	D1	国際会議	回転”リトープ”の重力波放出による不安定化
渡邊 大	東京大学	D2	国際会議	うお座-ペルセウス座の銀河の表面測光
第7回(1994.9.10.締切) 応募者9名				
上水和典	名古屋大学	D1	共同研究	1996年春に打ち上げる観測ロケットの設計打合せ
八木雅文	東京大学	M2	観測	アスカハ天文台にて近傍銀河団の多色撮像観測
第8回(1994.12.10.締切) 応募者3名				
浅井紀久夫	名古屋大学	D2	国際会議	「太陽と惑星間空間の遷移」に関する国際会議出席
第9回(1995.3.10.締切) 応募者9名				
横山央明	総研大	D3	国際会議	太陽コロナにおけるジェット電磁流体シミュレーション研究
塩谷泰広	東北大学	研究生	国際会議	星生成粘性円盤を用いた銀河の化学進化について